

行仙宿行者堂の役行者像修復検分とトイレLED照明取付け

◇実施日；平成28年06月21日(火) 大雨のち晴れ
◇参加者；浅村朋伸、青木宏充、梶野照雄。 3名。

先日の熊野修験奥駈修行に参加された方から、行仙宿行者堂の役行者像修復の必要を指摘されたことから、奈良市・浅村仏師に修復を打診したところ「6月21日に都合がつくので、現物を確認したい」との返事を頂いた。見に行くだけではもったいないと思ひ、トイレのLED照明を準備して行仙宿に向かった。

当日は大雨洪水警報が出る荒れた天気で、午前5時過ぎに起きてパソコンを立ち上げ、リーダーとにらめっこ。午前8時過ぎに雨雲が通り過ぎたのを確認して出発した。

尚、沖崎氏から青木氏へ「大雨洪水警報が出ており、道路は通行止めになる可能性があり無理せず延期」の電話を入れていた。



滝のようになった堰堤



流木？



登山口でも

国道の電光掲示板にあちこちの雨量規制通行止めが表示されているので、通れるのか？と心配しながら南下するが、伯母峰トンネルを越えたあたりから青空が広がり、通行止めの規制は全くなかった。

R425は落石も無く、途中で“奈良県”の刺繍の入ったジャンパーを着た2名が流れ出た落ち葉を箒で掃除していた。

R425から林道に入る、いつもは水が流れていない堰堤も立派な滝になっている。落石5個と流木1本を除けて登山口に到着、準備して登り始める。モノレールは駐機小屋のおかげで殆ど濡れず、運転席シートも乾いていた。

第2ベンチで青木さんに電話「近鉄の踏切が上がり、大渋滞で遅れる」との事だった。

行仙小屋到着、お湯を沸かして昼食を摂る。食後、ノートを写真に撮り、トイレのLED照明を取り付け始める。

4個を取り付け終え、電源への配線というところで声が聞こえ、浅村、青木両氏が到着した。14時過ぎだった。



小屋のお陰で濡れてない



笠捨山No.21鉄塔から



全山新緑



浅村氏検分中

お堂に入って鍵を探すが見つからず、チェーンを一コマ切って扉を開けた。

役行者像を下ろして浅村氏の検分が始まる。検分を2人にお任せして、トイレの配線工事を続けた。配線は10分ほどで終了、電圧を測ってみると、ちょうど12Vだったが、念のため電流制限抵抗を入れた。今日、小屋に着いた時にトイレの照明がONのままになっていたこともあり、20分程度のタイマーを入れるように準備している。

配線工事終了、工具を片付け掃除機を出して小屋内をきれいにする。掃除していると、一名の逆峯縦走者が到着。京都市左京区の人で宿泊予約を入れているようだ。

役行者像検分の結果、像は寄木造りで、矧目が緩み、両手首と右足首は分離し、岩座は各部材の分離が見られた。

応急処置なら現場でも可能であるが、通常の修復作業は、作業場まで持ち降ろして、作業するとの事で、持ち降ろした場合は、浅村氏の現在の仕事と並行して行うようになるようだ。

今後の予定は浅村氏と連絡・協議の上、決めていきたい。持ち降ろすとなれば、お性根抜き(魂抜き)のご祈祷などが必要になると思われるので、中前行者や中根行者などのお力をお借りしたいと思う。



小便器の左右にLED



個室はそれぞれに



本日の参加者

補給路山口 11:40→12:35 行仙宿・昼食、作業 14:10 浅村、青木氏到着・像検分 15:30 下山準備 15:40→16:01 補給路登山口

(記 梶野)